認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース44号

平成27年度 催し物

今年度から、新しく始まる催し物もあります。夏休みは子供向けの体験学習が充実しています。

海苔に関するものや親子で楽しめる催し物などご用意して、皆様のご参加をお待ちしております。

開催日 月	開催日 日・曜	催し物	対象	受付開始日
4	5日（日）	海苔つけ体験	どなたでも	3月11日(水)
	25日（土）	【新規】海藻おしば教室	どなたでも	
	29日（水祝）	「海の畑」上映会	どなたでも	当日先着
5	16日（土）	緑のカーテンを編もう	小５以上	4月11日(土)
6	20日（土）	あみあみペットボトルホルダーづくり	小５以上	5月21日(木)
7	19日（日）	貝がら工作	小学生以下	7月11日(土)
	26日（日）	浜辺の生き物探検隊	小３以上	
	29日（水）	コースターづくり	小３以上	
8	1日（土）	自由研究で海苔を調べよう	小３以上	
	6日（木）	ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう	小３以上	
	12日（水）	タペストリーをつくろう	小３以上	
	15日（土）	フジツボベビーを見てみよう！（2回連続）	小３以上	
	22日（土）		小３以上	
	30日（日）	浜辺の生き物探検隊	小３以上	
9	13日（日）	海苔簀づくり	小３以上	8月21日(金)
10	17日（土）	大森の浜辺のまちガイドツアー（仮）	小５以上	9月21日(月祝)
11	14日（土）	海苔簀づくり	小３以上	10月11日(日)
	29日（日）	海苔つけ体験	どなたでも	11月11日(水)
12	6日（日）	海苔つけ体験	どなたでも	11月21日(土)
	19日（土）	海苔つけ体験	どなたでも	
1	9日（土）	海苔つけ体験	どなたでも	12月21日(月)
	24日（日）	海苔つけ体験	どなたでも	
2	13日（土）	海苔つけ体験	どなたでも	1月11日(月祝)
	28日（日）	海苔つけ体験	どなたでも	
3	5日（土）	海苔つけ体験	どなたでも	2月21日（日）
	13日（日）	海苔つけ体験	どなたでも	

催し物の詳細は、区報およびホームページでお知らせしています。

申込み：区報掲載日の午前9時より電話にて申込受付。土日祝日も受付けています。

申込・問合せ先：大森海苔のふるさと館　電話：03-5471-0333

毎月の催しもの

毎月の催し物の中から、注目の催し物や今年度新しく実施するものなどをご紹介します。

■【新規】海藻おしば教室

（10：00～11：30、14：00～15：30）

海苔や近くの浜辺の海藻で海藻おしばを作ります。

■緑のカーテンを編もう（13：30～15：30）

海苔網の編み方を応用して、ゴーヤーなどを育てるための緑のカーテンのネットを紐で編みます。

■あみあみペットボトルホルダーづくり

（13：00～16：00）

海苔網の編み方を応用して、ペットボトルを持ち歩くネット状のホルダーをつくります。

■夏休み体験学習会

✱貝がら工作（9：30～、13：00～、15：30～）

自然の貝がらを使って工作をします。　各1時間半。

✱浜辺の生き物探検隊（9:30～12:30 参加費100円）

浜辺の生き物の観察をして、海と私たちの関係を学びます。東京海洋大学の学生が教えてくれます。

✱コースターづくり（13:00～15:00）

海苔簀編みを応用しヨシでコースターを作ります。

✱自由研究で海苔を調べよう（13:00～16:00）

✱ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう

（13:00～16:00 参加費：100円）

海苔とりの舟のペーパークラフトをつくります。

✱タペストリーをつくろう（13:00～15:00）

海苔網の編み方を習って、その網に貝殻やビーズ、リボンなどを飾ってタペストリーを作ります。

✱フジツボベビーを見てみよう！（13:00～15:00）

一回目でフジツボの赤ちゃんを育てて、二回目で動く様子を観察します。

■海苔簀（のりす）づくり（13：30～16：00）

ヨシを使って海苔つけに使う海苔簀を作ります。手作り海苔簀で、昔と同じ海苔つけ体験ができます。

■大森の浜辺のまちガイドツアー

（13：00～16：00 参加費100円）

潮風が感じられる大森地域を歩き、海苔の名残を探しながら、みんなで一緒に大森の魅力を見つけましょう。

■海苔つけ体験（10：00～12：00）

一番の人気の催し物です。生海苔から乾海苔をつくります。ぜひ、ご家族そろってご参加ください。

ミニ・イベント

家族連れでお気軽にご参加いただけます。

主催：NPO法人　海苔のふるさと会

■絵本の読み聞かせ＆公園散歩

季節に合わせた絵本の読み聞かせをした後、公園でお花や生き物を探しましょう。主に幼児対象です。

日にち：毎月第四火曜日（9、12月は第三火曜日）

時間：11：00～11：30

■ひまわり・プロジェト

館の周りにきれいなひまわりを咲かせましょう。

耕しの巻：4月12日（日）

種まきの巻：5月2日（土）、4日（月祝）

水やりの巻：種まきから7月までの毎日

種とりの巻：9月22日（火祝）

※水やり以外は、いずれも13：30～14：30先着順

■季節飾りと工作遊び

カブトづくり：5月3日（日）、5日（火祝）

七夕飾りづくり：7月4日（土）

貝のおひなさまづくり：2月20日（土）

※いずれも、13：30～15：30（時間内自由参加）

また、節句人形や七夕の展示も行います。

■観察会「浜辺の小さな生き物たち」

日にち：6月14日（日）、10月12日（月祝）

時間：13：30～15：30

■工作「貝の飾りづくり」

日にち：9月20日（日）時間：未定

■お月見コンサート

日にち：9月20日（日）時間：17：30～19：00

※小学生以上、要事前申し込み（8月より募集予定）

■その他にも！

✱ゴールデンウィーク：のりのり☆クイズ

✱夏休み：のり検定（海苔のクイズ）

✱毎月：花壇の手入れ（5、11月は花の植え替え）

海苔のふるさと会　会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧いただくか、窓口までお尋ねください。

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」44号

平成27年4月1日発行

編集・発行　認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会

連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース45号

ふるさと館サポーター はまどの会

はまどの会は、海苔の活動を深く学んだり、催し物のボランティアをしたりして、ふるさと館の活動を支えています。普段の活動の内容や様子をご紹介します。仲間も随時募集しています！

■活動内容

＊催し物のボランティア－海苔つけ体験など主に海苔に関する催し物のボランティアです。参加者の誘導や案内、資料の配布、道具の運搬などを行います。学校の海苔つけ体験などの学習支援も行っています。

＊子供向けの工作の指導－小学生向けの夏休み工作の指導や、子供向けの折紙など簡単に覚えられます。

＊研修－活動に役立つ海苔の知識や地域の情報などを学べる、はまどの会対象の研修に参加できます。座学と体験の二つがあり、繰り返し学ぶことができます。

＊館の活動のボランティア－花壇の手入れや体験用の海苔簀づくり、浜辺の学習の安全管理などのボランティアも行っています。

＊その他－そのほかにも、はまどの会全体会やバス研修旅行への参加、他館見学など、楽しい企画もあります。

■活動日

活動のスケジュールは、毎月、はまど通信を発行してお知らせしています。

主にに土日祝はイベントのボランティア、平日は研修や準備作業などの活動を行っています。仕事をしている方も、自分の休みに合わせて自由に活動日を選ぶことが出来ます。

■活動の方針

参加条件は**「誰とでも仲良く活動できること」**だけです。活動日数や曜日などの制約はなく、**「できることを、できるときに、楽しく笑顔で！」**を合言葉に、無理なくそれぞれのペースで活動しています。

■参加のメリット

メンバーの多くは60代でやや女性が多いですが、世代や性別分け隔てなく、仲良く活動をしています。

活動に参加すると、海苔の仕事を苦労しながら学び習得する喜び、それをイベントの参加者や子どもたちに教える喜びを感じることができます。また、元海苔生産者や参加者との会話が楽しみという方もいます。

■ぜひご一緒に

＊子どもが好きな人－親子参加のイベントがたくさんあります。

＊小学校の学習支援に関心のある方－小学校の海苔つけや見学案内などを行っています。

＊工作が好きな人－折紙や夏休み工作などの指導。

＊海苔の伝統と文化を伝えたい人－当館一番人気の海苔つけ指導者になってみませんか。

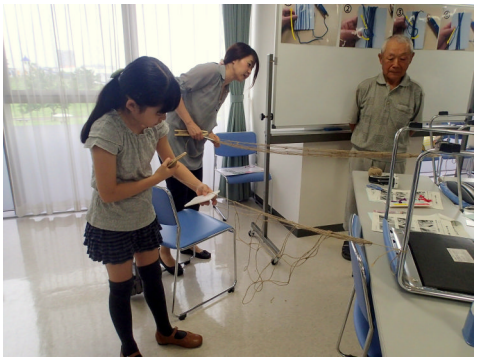
興味のある方は、当館にお電話または窓口にお問合せください。年間を通してメンバーを募集しています。

（まこ）

5月の全体会終了後、はまどの海苔巻きとおにぎらずを作って交流会。おしゃべりも盛り上がりました。

ふるさと館オリジナル　緑のカーテンと馬込半白節成きゅうり

5月16日、「緑のカーテンを編もう」を開催しました。このイベントでは、「網針」と「目板」という昔の道具を使い、海苔網の編み方である「かえる股」と「とっくり」を応用して、ゴーヤなどのつるが巻き付くためのネットを作りました。参加者は悪戦苦闘しながら、オリジナルのネットを編みあげ、お土産として持ち帰りました。当日は大田区環境保全課から提供いただいたゴーヤのタネもプレゼントしたので、今頃は立派に育っているのではないでしょうか。



館の職員も自分たちでネットを編み、入口近くに設置しました。ふるさと館で育てているのはゴーヤと馬込半白節成きゅうりです。馬込半白節成きゅうりとは、馬込を発祥とする江戸野菜の一種です。名前の通り、ヘタ側が緑で先の方が白い「半白」で、節ごとに実ができる「節成」が特徴です。ぬか漬けなどの漬物向きだそうです。明治後半から昭和の中ごろまで多く生産され、一度は姿を消しましたが、多くの人の手により復活し、栽培されています。

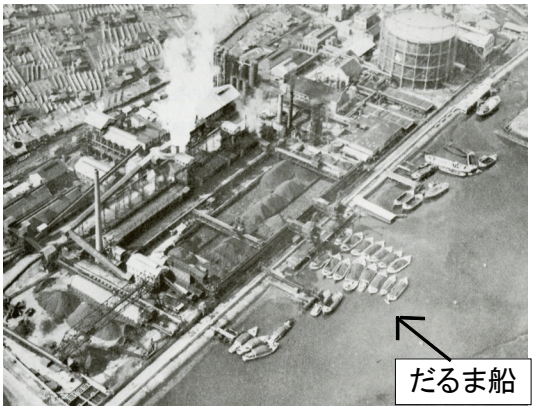
（三好）

新展示　大森の歴史を伝えるだるま船

2階のエレベーター前に、新しく「だるま船」の模型がお目見えしました。

「だるま船」とは沖合の大型船から、工場へ燃料となる石炭を運ぶために使われていた船です。他の船に引いてもらって移動すること、形が丸いことからこの名前がついたと言われています。

大森地区の沿岸部には、明治の終わり頃から大工場が立ち並んでいました。現在は「大森ふるさとの浜辺公園」として親しまれている場所近くにも、かつては東京ガス大森工場が建っており、そばには石炭を山のように積んだ「だるま船」が並んでいました。大森で海苔づくりが行われていたのと同じ頃に、「だるま船」も大森の海に浮かんでいたのです。



『大森工場史』より
工場全景　昭和29年ころ

小島延喜さんとだるま船

今回模型を製作、寄贈して下さったのは、元船大工の小島延喜さんです。小島さんの家では、かつて船大工「船竹」を営まれており、1階の海苔船や中ベカの造船を手掛けたのも「船竹」でした。この模型は、戦前に「船竹」で造船した船型をもとに制作されたものです。船頭の家族が船内で生活していた様子を再現するため、手作りのかまどや物干し場、水がめなども取り付けられています。どんな家族がこの船で暮らしていたのか…想像がふくらみますね。

（三好）

海苔のふるさと会　会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧いただくか、窓口までお尋ねください。

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」45号
平成27年6月1日発行
編集・発行　認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース46号

海苔の仕事着

海苔の仕事は、年間を通しての重労働、冬の寒さとの戦い、海中での作業という特殊性があります。季節ごとの作業と、作業に合わせた仕事着の工夫を紹介します。

ヒビごさえ

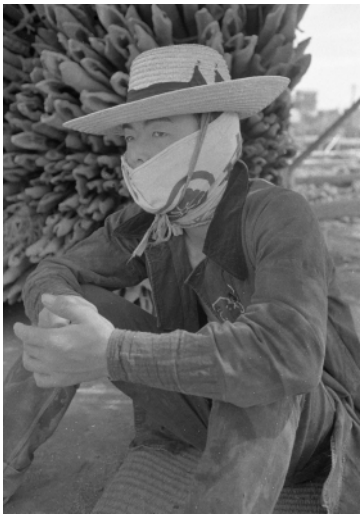
海苔づくりは、夏の材料準備から始まります。

竹ヒビが主流だった大正から昭和20年ころは、竹ヒビを仕立てるヒビごさえの作業をしました。8月、河岸にはヨシズの日よけ小屋が建ち並び、前年の竹についたセッコロ（フジツボ）を落とす作業が始まります。

服装は、麦わら帽子に頬(ほお)っかむり、夏用の単衣(ひとえ)のコテッポを着用しました。袖(そで)に竹ヒビの枝が入らないよう、コテッポはコハゼで手首がしまるように仕立てました。

「ガリ、ガリ」「コツ、コツ」と鉄のセッコロ落しで削り落とす音と、人々の声が入り混じり、このころの河岸はどこも賑やかでした。

竹は下枝を払い、根元には返しの小枝をつけました。9月の移植までに必要な竹ヒビを用意するために、昼夜を問わずヒビごさえの作業に追われました。



昭和33年夏、コテッポ姿で竹の支柱の準備
（撮影：日高勝彦氏）

ヨシ刈り

7月20日過ぎには、海苔簀(のりす)の材料のヨシ（葦）刈りが始まります。

麦わら帽子に頬(ほお)っかむりし、多摩川や鶴見川の河原に出かけます。刈り取ったヨシは、葉を落とし根元を切り揃えて持ち帰ります。風がヨシにさえぎられ、うだるような暑さの中での作業でした。また、品質のいい江戸川河口のカセヨシ（葛西葦）を購入することもありました。いずれも、10日ほど毎日炎天下に干して乾かします。

干しあがると、海苔簀編みの夜なべが毎晩続きました。

種付け・移植

9月の十五夜前後になると、海苔の種（胞子）がよくつく千葉方面の漁場にヒビを運び、一度ヒビを建てる種付けが始まります。

昭和10年ころ、千葉の種場にて振り棒で種付けのヒビ建て　　（大田区立郷土博物館所蔵）

漁場では、海苔下駄と振り棒で竹ヒビを建てる作業が数日続きます。コハゼのついたコテッポに股引(ももいき)姿で、腰まで水に浸(つ)かって作業しました。戦後、海苔網のころには、胸までのゴム長靴も出回りましたが、若者は買って貰うことができずボータ姿で海水に飛び込んで作業しました。

約1ヶ月経つと種が発芽し、漁場へ移す移植(いしょく)を行います。早朝に船で千葉へ渡り、ヒビを抜いて船に乗せ、大森へ戻り、翌日漁場へヒビを建てる作業を行います。全てのヒビを移植するまで、数日間、竹を抜いたり建てたりの作業を繰り返し、連日重労働が続きました。しかし、海苔の芽を見ながらの作業なので、辛くとも希望と張り合いのある仕事だったそうです。

ボータを刺す

種付けや移植で男性が不在の間、女性は冬の作業で着るボータを刺しました。ボータは刺し子で、冬の海の保温と労働作業の布の補強の役割をします。すり切れると別布を継いで、その部分を縫い刺して長く使いました。

「チンチンこおろぎ、ボータ刺せやれ刺せ、浜からハマド（浜で作業する人）がけえってくる（帰ってくる）」と口ずさみながら、女たちも夜なべで冬の海苔のシーズンに備えました。

海苔とり

11月下旬から翌年3月までが海苔とりのシーズンです。

身を切るような寒さの中、頬っかむりに帽子、上半身はジュバンに腹掛け、その上にコテッポやボータをはおり、下は股引（ももひき）に前掛けをしました。昭和初めころは、ドテラ（綿入れの長着）姿で立ってベカブネをこいで海苔とりに行きました。コテッポやボータの上には、防寒の袖なしのチャンチャンコなども着ました。

昭和33.4年の冬、ベカブネで海苔とり
（撮影：日高勝彦氏）

戦後になると、ボータの下にはセーターやシャツ、下はツルシンボ（既製品）のズボン、足は長靴といった服装に変化していきました。

海苔とりは、海水に手を入れるので、ボータの袖は左右とも七分袖が多く、中には初めから利き手だけ短く仕立てる家もありました。

冬は日中に潮が引かない日が多く、竹ヒビのころは片肌を脱いで肩まで腕を海中に入れて海苔をとることもありました。

海苔つけ

海苔を採った翌日の未明から、海苔つけが始まります。

服装は海苔とりと同じようにコテッポをはおり、下は股引、後にはズボンでした。海苔つけは水で前がぬれるので、必ず前掛けをしました。前掛けは、海苔問屋や海苔の資材屋などから、年末年始のあいさつの折に貰いました。

昭和33.4年の冬、未明の海苔つけ
（撮影：日高勝彦氏）

（五十嵐）

ボータ

ボータは、主に海苔とりなど冬の海での作業で着ました。襟（えり）は和服のような仕立てで、木綿地に刺し子をします。使い古しの消防袢纏（はんてん）を仕立て直したものや、ミシンで縫（ぬ）ったものもありました。

刺し子は、冬の海の防寒と布の補強の役割をします。激しい労働で布の消耗（しょうもう）が激しく、切れたところに継ぎ当てをして補強し、長く着ます。二世代に渡って着続けたこともあったようです。

肘（ひじ）までまくりやすいように、袖（そで）は薄手の生地で左右とも七分袖に仕立てます。中には、利き手だけ短く仕立てることもありました。

コテッポ

夏のヒビごさえ、秋の種付け、ヒビ建て、冬の海苔とり、海苔つけなどの作業では、袖（そで）さばきが良いように袖口を狭く仕立てた仕事着を着ました。

襟（えり）を和服のように仕立てて、脇（わき）から肘下（ひじした）まで長襠（ながまち）を付けたものをコテッポといいました。手首にはコハゼをつけました。

大正時代になると、シャツ仕立ての被布袢纏（ひふはんてん）も登場します。洋服のような仕立てから若者に人気がありました。この被布袢纏（ひふはんてん）もコテッポといいました。

どこへでもコテッポを着て出かける様から、「大森のコテッポ」と言われていたそうです。外出用は、作業とは別に着分けていました。（五十嵐）

開催中　企画展「海苔の仕事着展」

11月15日（日）まで、2階企画展コーナーにて開催中！中富小学校から借用したものを中心に、実際に使用されていた仕事着を展示しています。

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」46号
平成27年9月1日発行
編集・発行　認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会　会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧いただくか、窓口までお尋ねください。

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース47号

海苔つけ体験は、生海苔がとれる冬限定の開催で、当館の一番人気の催し物です。ぜひ、ご家族揃って体験してみてください!

●海苔つけ体験とは？

海苔は一人二枚！
参加費無料！！

海でとった生海苔を、板海苔に加工する体験です。約50年前まで手作業で行っていました。

0.始まる前の準備

札に名前を書いて海苔簀につけたり、海苔の郵送手続きをしたりします。10～15分くらいの作業です。

1.イベントスタート（10:00）

今日の体験の説明や指導者の紹介をします。指導は、地元の元海苔生産者の方々です。海苔のクイズもあります！

地元の元海苔生産者がプロの技を指導！

2.海苔切り実演

体験の部屋に移動！

最初に、昔の道具を使って生海苔を切る実演を見ます。

3.水で練習

4つのグループに分かれて、まずは水で練習をしましょう。

4.指導者海苔つけ実演

刻んだ生海苔を水にといて、準備完了！

最初に指導者が実演をしてくれるので、手の動かし方やタイミングなど、説明を良く聞いてくださいね。

5.海苔つけ

いよいよ、海苔つけです！

重箱に刻んだ生海苔をすくって、枠めがけて一気に流し込みます。あれこれ考えてしまう大人よりも、迷いのない子どもの方が上手なこともよくありますよ！

6.海苔干し

全員終わったら、枠干しに海苔を干して完成！12：00に体験終了です。

7.海苔のお渡し

自分で作った海苔がもらえます！

海苔は天気がよければ天日干しします。お昼過ぎ、海苔がピリピリと乾く音が聞こえてきます。

15：00ころ、海苔が乾いた人は持って帰ることもできます。ただし、乾く確率は30％くらい。翌日以降取りに来るか、郵送で送る方法も選べます。

できた海苔は乾し海苔なので、自宅であぶって食べてください。

電話で事前申込み！
各回先着80名様

●海苔つけ体験に参加しよう！

電話にてお申込みください。

時間：10:00～12:00

対象：どなたでも（年長以上は一人で体験可）

定員：各回先着80名

参加費：無料（送料は実費負担）

受付：受付開始日の9:00から電話にて受付け開始します。

（五十嵐）

開催日	受付日
11/29（日）	11/11（水）
12/6（日）	11/21（土）
12/19（土）	
1/9（土）	12/21（月）
1/24（日）	
2/13（土）	1/11（月）
2/28（日）	
3/5（土）	2/21（日）
3/13（日）	

大森の海の仕事

毎年秋に実施しているまち歩きのイベントでは、当時を知る方々を訪ねてお話を伺っています。今回は、大森の海で活躍した、元海苔生産者と貝漁師の方からお聞きしたお話をご紹介します。

■田中正一氏■

田中正一さん（昭和15年生まれ）は、昭和30年、16歳の時に家業を継いで海苔生産を始めることになりました。小さい頃から船を漕ぐなど海と親しんでおり、すぐに一人前として扱われたそうです。

＜海苔漁場の割り当て＞

漁場はまず、漁業協同組合で行われるくじ引きによって、丁場（住んでいる地域ごとのグループ）ごとに割り当てられます。その後、丁場の中で再びくじ引きをして、各生産者の漁場が決まります。採れる海苔の量は漁場の場所に左右されるため、良い漁場が当たるよう、誰もが願っていました。

自分の漁場の目印として、支柱に布切れやわら、果物用のかごをつけていた家がありました。また、持ち主が分かるように、網には手板と呼ばれる小さな板を縛っておきました。手板には焼印で屋号が押されていました。

＜冬の海での海苔採り＞

冬の海で行われる海苔採りは寒さとの戦いでした。風の強い日、雪が降りそうな曇りの日は一層寒さが厳しく感じられました。船に火を積むことはできないため、船のエンジンの煙突で暖をとりました。

作業の時は刺子作りの上着であるボータ、股引きを着ていました。海苔採りは素手で行う作業のため、ボータは袖が濡れないよう、工夫をしていました。正一さんのものは袖がボタンで取り外せるようになっていました。

冬の海で恐ろしいのは強い風です。突風にあおられ、ベカ船がヒビ柵に入ってしまい、身動きが取れなくなるという恐ろしい経験をした、と正一さんは語ります。（三好）

「昭和30年代　田中宏氏撮影
大田区立郷土博物館所蔵」

■田中孝氏■

内川沿いは古くから貝漁師が住んでいます。大森東の田中孝さん（昭和8年生まれ）もその一人で、大森地区で最後の貝漁師です。

＜かつての漁場と貝捲き漁師＞

昭和37年ころ、大森地域で貝捲き漁師は48軒ありました。今の都掘公園が堀になっていて、打瀬船や貝漁師の船が多数係留していました。

羽田灯台（現在の羽田空港周辺）や競艇場はとても良い砂地で、たくさんの貝や魚がとれたそうです。都掘を進むと今の競艇場で、すぐ漁場へ行くことができました。

貝捲き漁師としていろいろな経験をしましたが、冬場の漁はとても大変だったそうです。冬場は夜中に干潮になるため、真冬の夜中の海に腰まで浸かり、漁を行っていたそうです。

＜現在の羽田の漁場＞

「羽田沖のシジミ」

今でも東京湾でとれる貝は美味しいのですが、貝の量が減ってきているそうです。東日本大震災の影響で海底の深さが変わり、貝がとれなくなったそうです。また、新しく出来た羽田空港の新滑走路の影響で潮の流れが悪くなり、かつては素晴らしい漁場であった羽田空港周辺も、今は砂の質が粘土のように変わってしまったそうです。

そんな環境でも羽田にはまだ漁をしている人が10人ほどいるようです。ほとんどが貝捲き漁師で、魚はわずかにアナゴ漁が残っているそうです。

孝さんはご高齢もありここ数年は漁に出ることはなくなりましたが、今でも船の整備は欠かさないそうです。（平山）

海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧いただくか、窓口までお尋ねください。

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」47号
平成27年11月1日発行
編集・発行　認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース48号

新年のご挨拶

海苔のふるさと会　理事長
鳴島亨郎

新年あけましておめでとうございます。

このたび海苔のふるさと会の理事長を拝命いたしました、鳴島亨郎でございます。

会員の皆様を始め多くの関係者の方々には、館の活動の発展のためにたいへんご尽力いただいていておりますことを心から感謝申し上げます。

甚だ微力ではございますが、故平林義正前理事長の功績を受け継ぎ、ふるさと会並びに館の発展のために専心努力する所存です。今後もご指導ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

さて、昨年は野鳥公園のフェスティバル、エコフェスタワンダーランド、アースデイ東京、東京湾大感謝祭、大田区本庁舎での共同展示会、おおた商観光展、郷土博物館のまち歩きなど、出張イベントや共同展示なども行い、他の関係団体との結びつきを育ててまいりました。

6月からは、オリジナルの前掛けの販売を始めました。イベントの際にスタッフも着用し、使い勝手の良さはお約束します。

また、外国人向けのメディアからの取材や来館者も増えております。ますます皆様に親しまれる活動を目指してまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

新春

開催中

企画展
「写真でたどる羽田の記憶」
会期：～平成27年3月21日（月祝）
時間：9:00～17:00＜入館無料＞

大師橋のたもとにて、海苔干し風景　昭和31年ころ

弁天通りを出初式に向かう羽田消防団　昭和29年

昨年はこんなニュースがありました！

―本年もよろしくお願い申し上げます―

1月　だるま船の模型が寄贈

大森の元船大工・小島延喜氏より、だるま船の模型を制作、寄贈していただきました。2階展示室にて展示し、3月に感謝状をお贈りしました。

3月～　海藻おしば展が好評

3月から8月まで、海藻おしば協会会長の野田三千代氏のご協力により、企画展「海藻おしば展―海の森からの贈り物―」を実施しました。14の新聞やテレビなどのメディアの取材を受け、好評を得ました。

5、6月　一日の入館者数更新！

GW中の5月4日は入館者1,581人で、一日の入館者数の最高人数を更新しました。

また、6月28日には累計入館者数が60万人を超えました。

通年　新規イベント

企画展にあわせて、新たに「海藻おしば教室」を実施しました。また、リトルターンプロジェクトとの共同開催で「つくってあそぼう！ぱたぱたコアジサシ」を実施しました。

平林義正前理事長の訃報

認定特定非営利活動法人海苔のふるさと会の平林義正理事長が、平成27年11月10日永眠いたしました。平成20年の会発足から理事長を務めていました。

戦前の東京都沿岸の海苔養殖のことを知る長老であり、長年地域の歴史を継承することに尽力してきただけに惜しまれます。

昨年1月17日には、区民大学のおおた地域学特別講座「海の記憶あの時の苦悩と決断」で羽田の石井五六氏と対談したり、テレビ取材を受けたり、最期まで自身の経験を後世に伝える活動をしていました。

この場を借りて、謹んでご報告させていただきます。

通年　テレビ、新聞などで紹介

＊4月　朝日新聞　企画展「海藻おしば展」紹介
＊4月　スウェーデン国営ラジオ　海苔のインタビュー
＊5月　おおた写真ニュース　海苔つけ体験紹介
＊6月　大田区報　海藻おしば教室紹介
＊6月　NHK World Radio「Welcome to Amazing Japan!」　海苔つけ（NHKワールド国際放送局）
＊10月　NHK国際放送局　「TOKYO EYE 2020」
＊10月　NHK BSプレミアム「新日本風土記～首都高～」　故平林理事長最期のインタビュー
＊12月　NHK「キッチンが走る！」撮影会場
＊12月　MXテレビ「ぷらちなライフ　人生楽笑」
ほか多数紹介していただきました。

海苔のふるさと会　会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧いただくか、窓口までお尋ねください。

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」48号
平成28年1月1日発行
編集・発行　認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会　会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース49号

ふるはま 海苔の生育観察 今年の生育状況

2月8日　海苔とり（網張りから47日目）

大森ふるさとの浜辺公園の浜辺では毎年、往時の海苔養殖風景の再現と技術の継承を目的に竹ビビを建て、海苔網を張っています。ここ数年は、降雨などによる塩分濃度の低下など海の環境から思うように海苔網の海苔が伸びることがありませんでした。今シーズンの海苔養殖は全国的に不作が伝えられており、ふるさとの浜辺でも生育が心配されましたが、今シーズンはなんと10ｃｍほどまで伸び、収穫に至りました。採った海苔はさっそく海苔つけし、つやのある乾し海苔ができました。今シーズンの取り組みを振り返ってみます。

１．海苔網張り（１２月２４日）

ここ数年、網張りは11月後半から12月初めに行なっていましたが、結果が思わしくなかったことと最近は水温が下がるのが遅いことから今年は12月の終わりに行ないました。千葉で種付けをし、少し海苔が伸びた網を張りだしました。この方法は昔行われていた「移殖」と同じですが、昔は七五三の頃には「初手入れ」（その年はじめての海苔とり）をしていたそうですから環境面では相当変わったことがわかります。

網の張りだし初めは、海苔の芽が弱いことや二次芽が出て網につくことから数枚重ねて張る「重ね張り」をします。張る高さは環境の変化を考慮して昔よりも低く張りました。

網を張り、支柱にくくりつける

２．海苔とり（２月８日）

網を張ってから度々伸び具合を見に行き、網の高さを調整したり、海苔を食べる水鳥から海苔を守るためのネットを張ったりしてきました。そのかいもあってか１月に入ると、生産地のような速さではありませんでしたが少しずつ海苔が伸び、この日ついに海苔をとることができました。とった海苔はさっそく海苔切り包丁で細かく切り、四角く海苔付けして乾しました。

海苔が伸びてくると、光が下まで届かないことや海苔がこすれることから重ね張りは良くなく、１枚１枚で張るようにします。そのため元の場所の横に支柱を新たに建てて、網を移しました。今シーズンもう１回ぐらい収穫したいと思っており、網の観察や高さ調整を続けています。

（小山）

総勢13名、胴長を着て海苔とり

凍える寒さでも素手で海苔とり

太陽の光を浴びて、輝くような海苔ができあがりました→

冬になって、実際に海で作業をするようになるまでにもいくつかの作業があります。

＊竹ヒビと支柱抜き（４月１７日）

シーズンが終わると、一冬海に建てていた竹や支柱を海底から抜き、片付けます。抜くときには「三本爪」「横万力」といった昔の道具を使います。抜いた竹には「セッコロ」と呼ばれるフジツボなどが結構ついており、それを落とします。

＊竹のアク抜き（８月１３日）

冬に近隣の中学校で頂いてきた竹を、油分を抜くために１か月ほど海に沈めました。この竹は竹ヒビに使います。

＊竹ヒビこさえ（９月１１日）

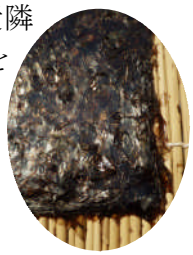
アクを抜くために海に沈めていた竹を引き上げて、竹ヒビをつくります。竹ヒビを使う方法は海苔養殖が網で行われるようになる前におこなわれていました。見た目は竹ぼうきを逆さにしたようですが、基の竹に細かい枝をつけて枝振りが広がるようにします。こうすることによってたくさん海苔がつくようになります。また根元には「あご」と呼ばれる返しをつけます。こうすることによって海底から抜けにくくなります。

＊場割り（９月２７日）

昔は海苔養殖の場所を分ける目印を建てることを「場割り」と呼びました。この活動では、どのあたりに竹ヒビと海苔網の支柱を建てるかの目印と、網の高さの基準になる「八段線」の竹を建てるために行なっています。

＊竹ヒビと海苔網支柱建て（１０月２６日）

「そこり」と呼ばれるその日一番潮が引く時を見計らって作業をします。竹ヒビは、海に入って「振り棒」という昔ながらの道具を使って海底に穴をあけ、そこに素早く差し込んで建てます。海苔網の支柱は水圧ポンプを使って穴をあけ建てました。当日は近隣の小学生が見学に訪れ、作業の様子を見学し、実際に自分たちでも振り棒を使って砂浜に穴をあける体験をしました。



（小山）

海苔のふるさと会　会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧いただくか、窓口までお尋ねください。

認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」49号
平成28年3月1日発行
編集・発行　認定特定非営利活動法人　海苔のふるさと会
連絡先　東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347